

エクセル表計算による複鉄筋矩形断面の許容曲げモーメント算出

日中構造研究所 松原勝己

1. はじめに

先に、「2.多段配筋矩形 RC 断面に対する許容応力度照査時の M-N 関係図の作成（その 2）」において、許容時の断面仮定から多段配筋断面の許容曲げモーメントの解析式を提示しました。本報では、その解析式を複鉄筋矩形断面に適用し、同様の許容曲げモーメント式を導入することで、マクロを使用せずエクセル表計算により許容曲げモーメントを算出しました。ただし、複鉄筋断面としては、圧縮鉄筋量と引張鉄筋量は同一、圧縮鉄筋および引張鉄筋被りは同一という対称配筋を仮定しています。

以下に、エクセルへの入力データの作成方法や出力の説明、また使用した解析式について記載します。

掲載したエクセルは自由に使用していただいて結構ですが、結果の妥当性判断は使用者に委ねることとします。

2. 複鉄筋断面の許容曲げモーメント式

許容曲げモーメント式の提示に対し、複鉄筋矩形断面の対称配筋を仮定する。また、コンクリート応力から鉄筋応力への換算のためのヤング係数比は、圧縮鉄筋および引張鉄筋とともに、n (=15) を使用することとする。

「2.多段配筋矩形 RC 断面に対する許容応力度照査時の M-N 関係図の作成（その 2）」で提示した許容曲げモーメントの解析式において、複鉄筋断面の条件を適用する。すなわち、配筋を圧縮および引張鉄筋の 2 段とし、圧縮鉄筋量 A_{sc} と引張鉄筋量 A_{st} 、圧縮および引張鉄筋被り c_c および c_t について、 $A_{st}=A_{sc}$ 、 $c=c_c=c_t=h-d$ (h : 部材高、 d : 有効高) を適用する。

上記条件のもとに、4 つのモードに対し、以下の許容曲げモーメント式が得られる。

2.1 全断面圧縮時（中立軸比 $k_1 > 1$ ）

中立軸位置が断面外かつ引張縁側にある場合である。中立軸比 k_1 を $k_1=x_1/h$ (x_1 : 圧縮縁から中立軸までの距離、 h : 部材高) で定義したとき、 $k_1 > 1$ となるケースである。

このとき、中立軸比 k_1 、許容曲げモーメント M_{a1} および圧縮鉄筋応力 σ'_s (圧縮正) が、次式の通り書くことができる。ここで、圧縮鉄筋応力の式を提示したのは、本報では圧縮鉄筋が許容応力度に達するモードについては考慮していないことから、以下の 4 つのモードにおいて圧縮鉄筋応力が許容に達していないことをチェックするためである。

$$k_1 = \frac{0.5+np_t}{-\bar{N}_c+1+2np_t} \quad (1)$$

$$\frac{M_{a1}}{bh^2} = \frac{\sigma_{ca}}{k_1} \left\{ k_1^2 - k_1 + \frac{1}{3} + np_t(2k_1^2 - 2k_1 + 2\delta^2 - 2\delta + 1) \right\} + \frac{N}{bh}(0.5 - k_1) \quad (2)$$

$$\frac{\sigma'_s}{\sigma_{sa}} = \frac{k_1+\delta-1}{k_1} \frac{n\sigma_{ca}}{\sigma_{sa}} \quad (3)$$

ここに、 k_1 ：中立軸比

$Ma1$ ：許容曲げモーメント

N ：軸力(圧縮正)

n ：ヤング係数比($=15$)

pt ：引張鉄筋比($=Ast/(bh)$ 、 Ast ：引張鉄筋量)

\bar{N}_c ： σ_{ca} で無次元した軸力($=N/(bh \sigma_{ca})$)

b ：部材幅

h ：部材高

σ_{ca} ：コンクリート許容応力度

σ_{sa} ：鉄筋許容応力度

δ ：部材高に対する有効高の比($=d/h$)

d ：有効高（圧縮縁から引張鉄筋までの距離）

$\sigma_{s'}$ ：圧縮鉄筋応力(圧縮正)

2.2 中立軸断面内かつ圧縮縁が許容時（中立軸比 $k_2 : kb < k_2 < 1$ ）

中立軸が断面内にあり、かつ圧縮縁コンクリートが許容応力度に達する場合である。中立軸比 k_2 を $k_2=x_2/h$ (x_2 ：圧縮縁から中立軸までの距離、 h ：部材高) で定義したとき、 $kb < k_2 < 1$ となるケースである。ここに、 kb は圧縮縁と引張鉄筋が同時に許容応力度に達するとき（釣合時）の中立軸比である。このとき、中立軸比 k_2 、許容曲げモーメント $Ma2$ および圧縮鉄筋応力 $\sigma_{s'}$ （圧縮正）が、次式の通り書くことができる。

$$kb = \frac{\delta}{\frac{\sigma_{sa}}{n\sigma_{ca}} + 1} \quad (4)$$

$$k_2 = \bar{N}_c - 2np_t + \sqrt{(\bar{N}_c - 2np_t)^2 + 2np_t} \quad (5)$$

$$\frac{Ma_2}{bh^2} = \frac{\sigma_{ca}}{k_2} \left\{ \frac{k_2^3}{3} + np_t (2k_2^2 - 2k_2 + 2\delta^2 - 2\delta + 1) \right\} + \frac{N}{bh} (0.5 - k_2) \quad (6)$$

$$\frac{\sigma'_{s'}}{\sigma_{sa}} = \frac{k_2 + \delta - 1}{k_2} \frac{n\sigma_{ca}}{\sigma_{sa}} \quad (7)$$

ここに、 kb ：釣合時の中立軸比 ($=xb/h$)

xb ：釣合時の中立軸位置

k_2 ：中立軸比

$Ma2$ ：許容曲げモーメント

N ：軸力(圧縮正)

n ：ヤング係数比($=15$)

pt ：引張鉄筋比($=Ast/(bh)$ 、 Ast ：引張鉄筋量)

\bar{N}_c ： σ_{ca} で無次元した軸力($=N/(bh \sigma_{ca})$)

b ：部材幅

h ：部材高

σ_{ca} ：コンクリート許容応力度

σ_{sa} ：鉄筋許容応力度

δ : 部材高に対する有効高の比($=d/h$)

d : 有効高 (圧縮縁から引張鉄筋までの距離)

$\sigma s'$: 圧縮鉄筋応力(圧縮正)

2.3 中立軸断面内かつ引張が許容時 (中立軸比 $k_3 : 0 < k_3 < k_b$)

中立軸が断面内にあり、かつ引張鉄筋が許容応力度に達する場合である。中立軸比 k_3 を $k_3=x_3/h$ (x_3 : 圧縮縁から中立軸までの距離、 h : 部材高) で定義したとき、 $0 < k_3 < k_b$ となるケースである。ここに、 k_b は圧縮縁と引張鉄筋が同時に許容応力度に達するとき (釣合時) の中立軸比である。このとき、中立軸比 k_3 、許容曲げモーメント Ma_3 および圧縮鉄筋応力 $\sigma's$ (圧縮正) が、次式の通り書くことができる。

$$k_b = \frac{\delta}{\frac{\sigma_{sa}}{n\sigma_{ca}} + 1} \quad (8)$$

$$k_3 = -n(\bar{N}_s + 2p_t) + \sqrt{n^2(\bar{N}_s + 2p_t)^2 + 2n(p_t + \bar{N}_s\delta)} \quad (9)$$

$$\frac{Ma_3}{bh^2} = \frac{\sigma_{sa}}{n(\delta - k_3)} \left\{ \frac{k_3^3}{3} + np_t(2k_3^2 - 2k_3 + 2\delta^2 - 2\delta + 1) \right\} + \frac{N}{bh}(0.5 - k_3) \quad (10)$$

$$\frac{\sigma'_s}{\sigma_{sa}} = \frac{k_3 + \delta - 1}{\delta - k_3} \quad (11)$$

ここに、 k_b : 釣合時の中立軸比 ($=x_b/h$)

x_b : 釣合時の中立軸位置

k_3 : 中立軸比

Ma_3 : 許容曲げモーメント

N : 軸力(圧縮正)

n : ヤング係数比($=15$)

p_t : 引張鉄筋比($=A_{st}/(bh)$ 、 A_{st} : 引張鉄筋量)

\bar{N}_s : σ_{sa} で無次元した軸力($=N/(bh\sigma_{sa})$)

b : 部材幅

h : 部材高

σ_{ca} : コンクリート許容応力度

σ_{sa} : 鉄筋許容応力度

δ : 部材高に対する有効高の比($=d/h$)

d : 有効高 (圧縮縁から引張鉄筋までの距離)

$\sigma s'$: 圧縮鉄筋応力(圧縮正)

2.4 全断面引張時 (中立軸比 $k_4 < 0$)

中立軸位置が断面外かつ圧縮縁側にある場合である。中立軸比 k_4 を $k_4=x_4/h$ (x_4 : 圧縮縁から中立軸までの距離、 h : 部材高) で定義したとき、 $k_4 < 0$ となるケースである。

このとき、中立軸比 k_4 、許容曲げモーメント Ma_4 および圧縮鉄筋応力 $\sigma's$ (圧縮正) が、次式の通り書くことができる。

なお、本ケースの許容曲げモーメント式は、「2.多段配筋矩形 RC 断面に対する許容応力度照査時の M-N 関係図の作成（その 2）」で提示した解析式から導出できる。複鉄筋断面に対する中立軸比の式(12)を用いて許容曲げモーメント式を求ることで、式(13)に示す中立軸比 k_4 に依存しない式が得られる。

$$k_4 = \frac{\bar{N}_s \delta + p_t}{\bar{N}_s + 2p_t} \quad (12)$$

$$\frac{M_{a4}}{bh^2} = \frac{\sigma_{sa}}{2} (2\delta - 1)(2p_t + \bar{N}_s) \quad (13)$$

$$\frac{\sigma'_s}{\sigma_{sa}} = \frac{k_4 + \delta - 1}{\delta - k_4} \quad (14)$$

ここに、 k_4 ：中立軸比

Ma4：許容曲げモーメント

N：軸力(圧縮正)

n：ヤング係数比(=15)

pt：引張鉄筋比(=Ast/(bh)、Ast：引張鉄筋量)

\bar{N}_s ： σ_{sa} で無次元した軸力($=N/(bh \sigma_{sa})$)

b：部材幅

h：部材高

σ_{sa} ：鉄筋許容応力度

δ ：部材高に対する有効高の比($=d/h$)

d：有効高（圧縮縁から引張鉄筋までの距離）

$\sigma_{s'}$ ：圧縮鉄筋応力(圧縮正)

3. エクセルの入出力データ

3.1 ワークシート「入力データ」

ワークシート「入力データ」に、断面諸元等の入力パラメータを作成する。複数のパラメータを入力することで、複数データの処理が可能である。

入力パラメータは、以下の通りである。

(1)番号

データの数だけ 1 から順にデータ番号を入力する。

(2)部材高 h(cm)

部材高を cm 単位で入力する。

(3)部材幅 b(cm)

部材幅を cm 単位で入力する。

(4)コンクリート許容応力度 σ_{ca} (N/mm²)

コンクリート許容応力を、N/mm² 単位で入力する。

(5)鉄筋許容応力度 σ_{sa} (N/mm²)

鉄筋許容応力を、N/mm² 単位で入力する。

(6)引張鉄筋量 Ast(cm²)

引張鉄筋量を cm² 単位で入力する。対称配筋を仮定しているので、圧縮鉄筋量 Asc は Asc=Ast によ

り設定される。

(7)鉄筋被り c(cm)

鉄筋被りを cm 単位で入力する。ここに、引張鉄筋の被りは、引張縁から引張鉄筋中心までの距離である。また、圧縮鉄筋被りは対称配筋を仮定しているので、引張鉄筋被りと同一に設定される。

(8)軸力 N(kN)

部材断面に作用する軸力を、kN 単位で入力する。圧縮力を正として定義し、負値は引張力を意味する。

本ワークシートは、許容曲げモーメント等の計算値についても出力される。

本ワークシートへの出力値は、以下の通りである。

(1)モード

計算された中立軸位置に応じて、4 つのモードのうち一つを出力する。4 つのモードは、全断面圧縮時、中立軸断面内で圧縮縁許容時、中立軸断面内で引張鉄筋許容時、および全断面引張時である。それぞれ、「圧縮」、「コン許容」、「鉄筋許容」、および「引張」で表示される。

(2)中立軸比 k

中立軸位置 x (圧縮縁からの距離) のとき、 $k=x/h$ (h : 部材高) で定義される中立軸比を出力する。ここに、中立軸比が有効高ではなく部材高に対する比で定義していることに注意する。

(3)中立軸位置 x(cm)

中立軸位置を、cm 単位で出力する。

(4)許容曲げモーメント $Ma(kNm)$

許容曲げモーメントを、kNm 単位で出力する。

(5) $Ma/(bh^2)$ (N/mm²)

応力単位で表示した許容曲げモーメントを、N/mm² 単位で出力する。この出力の目的は、軸力とともに応力単位で出力・グラフ化したとき、部材幅 b と部材高 h に無関係に表示できるためである。

(6) $N/(bh)$ (N/mm²)

応力単位で表示した軸力 (軸応力) を、N/mm² 単位で出力する。

(7)圧縮鉄筋 σ_s' / σ_{sa} (圧縮正)

圧縮鉄筋の照査値 (許容応力度に対する比) を出力する。本エクセルでは、圧縮鉄筋が許容応力度に達するモードを考慮していないことから、許容曲げモーメント時の圧縮鉄筋応力をチェックするために本照査値を出力している。本照査値が絶対値 1.0 以内であれば問題ないが、1.0 を超えている場合には圧縮鉄筋が許容応力度に達しているので別途検討が必要になる。

(8) N_{max}

最大軸力を表示する。純圧縮状態でコンクリート応力が許容応力度に達したときの軸力とし、次式で算出している。この N_{max} よりも大きい軸力に対しては解が求まらない。

$$N_{max} = bh\sigma_{ca} + 2nbhp_t\sigma_{ca}$$

ここに、 b : 部材幅、 h : 部材高、 σ_{ca} : コンクリート許容応力度、 n : ヤング係数比、 p_t : 引張鉄筋比

(9) N_{min}

最小軸力を表示する。純引張状態で鉄筋応力が許容応力度に達したときの軸力とし、次式で算出している。この N_{min} よりも小さい軸力に対しては解が求まらない。

$$N_{min} = -2bhp_t\sigma_{sa}$$

ここに、b : 部材幅、h : 部材高、 σ_{sa} : 鉄筋許容応力度、pt : 引張鉄筋比

図 3.1-1 に、ワークシート「入力データ」の例を示す。

番号	部材高 h(cm)	部材幅 b(cm)	コン许容 σ_{ca} (N/mm ²)	鉄筋許容 σ_{sa} (N/mm ²)	引張 鉄筋量 Ast(cm ²)	鉄筋被り c(cm)	軸力 N(kN)	モード	中立軸比 k (=x/h)	中立軸 位置 x(cm)	許容曲げ モーメント Ma (kNm)	Ma/(bh ²) (N/mm ²)	N/(bh) (N/mm ²)	圧縮鉄筋 ($\sigma_{s'}/\sigma_{sa}$) (圧縮正)	Nmax (kN)	Nmin (kN)
1	80	100	8	180	22.92	10	-800	引張	-11.4427	-915.414	7.536	0.0118	-1.0000	-0.939	6950.08	-825.12
2	80	100	8	180	22.92	10	-700	引張	-1.5980	-127.839	37.536	0.0587	-0.8750	-0.697	6950.08	-825.12
3	80	100	8	180	22.92	10	-600	引張	-0.4995	-39.957	67.536	0.1055	-0.7500	-0.454	6950.08	-825.12
4	80	100	8	180	22.92	10	-500	引張	-0.0767	-6.137	97.536	0.1524	-0.6250	-0.212	6950.08	-825.12
5	80	100	8	180	22.92	10	-400	鉄筋許容	0.0782	6.253	130.449	0.2038	-0.5000	-0.059	6950.08	-825.12
6	80	100	8	180	22.92	10	-300	鉄筋許容	0.1304	104.430	164.684	0.2573	-0.3750	0.007	6950.08	-825.12
7	80	100	8	180	22.92	10	-200	鉄筋許容	0.1667	13.335	197.995	0.3094	-0.2500	0.059	6950.08	-825.12
8	80	100	8	180	22.92	10	-100	鉄筋許容	0.1954	15.635	230.455	0.3601	-0.1250	0.104	6950.08	-825.12
9	80	100	8	180	22.92	10	0	鉄筋許容	0.2196	17.565	262.222	0.4096	0.0000	0.144	6950.08	-825.12
10	80	100	8	180	22.92	10	100	鉄筋許容	0.2405	19.238	293.229	0.4582	0.1250	0.182	6950.08	-825.12
11	80	100	8	180	22.92	10	200	鉄筋許容	0.2590	20.721	323.705	0.5058	0.2500	0.218	6950.08	-825.12
12	80	100	8	180	22.92	10	300	鉄筋許容	0.2757	22.056	353.657	0.5526	0.3750	0.251	6950.08	-825.12
13	80	100	8	180	22.92	10	400	鉄筋許容	0.2909	23.272	383.132	0.5986	0.5000	0.284	6950.08	-825.12
14	80	100	8	180	22.92	10	500	鉄筋許容	0.3049	24.388	412.172	0.6440	0.6250	0.315	6950.08	-825.12
15	80	100	8	180	22.92	10	600	鉄筋許容	0.3178	25.422	440.811	0.6888	0.7500	0.346	6950.08	-825.12
16	80	100	8	180	22.92	10	700	鉄筋許容	0.3298	26.384	469.079	0.7329	0.8750	0.376	6950.08	-825.12
17	80	100	8	180	22.92	10	800	鉄筋許容	0.3411	27.284	497.002	0.7766	1.0000	0.405	6950.08	-825.12
18	80	100	8	180	22.92	10	900	コンクリート	0.3529	28.232	520.798	0.8137	1.1250	0.431	6950.08	-825.12
19	80	100	8	180	22.92	10	1000	コンクリート	0.3718	29.743	524.384	0.8194	1.2500	0.443	6950.08	-825.12
20	80	100	8	180	22.92	10	1100	コンクリート	0.3914	31.314	528.382	0.8256	1.3750	0.454	6950.08	-825.12
21	80	100	8	180	22.92	10	1200	コンクリート	0.4118	32.945	532.676	0.8322	1.5000	0.464	6950.08	-825.12
22	80	100	8	180	22.92	10	1300	コンクリート	0.4329	34.576	537.147	0.8489	1.6250	0.474	6950.08	-825.12
23	80	100	8	180	22.92	10	1400	コンクリート	0.4546	36.372	541.675	0.8464	1.7500	0.483	6950.08	-825.12
24	80	100	8	180	22.92	10	1500	コンクリート	0.4770	38.162	546.143	0.8533	1.8750	0.492	6950.08	-825.12
25	80	100	8	180	22.92	10	1600	コンクリート	0.5000	40.059	550.435	0.8601	2.0000	0.501	6950.08	-825.12
26	80	100	8	180	22.92	10	1700	コンクリート	0.5235	41.882	554.436	0.8663	2.1250	0.507	6950.08	-825.12
27	80	100	8	180	22.92	10	1800	コンクリート	0.5476	43.805	558.047	0.8719	2.2500	0.514	6950.08	-825.12
28	80	100	8	180	22.92	10	1900	コンクリート	0.5721	45.767	561.162	0.8768	2.3750	0.521	6950.08	-825.12

図 3.1-1 ワークシート「入力データ」の例 (一部)

3.2 ワークシート「k および Ma の計算」

2.に記載した解析式により、中立軸比と許容曲げモーメントを計算するためのワークシートである。本ワークシートの出力項目は、以下の通りである。

(1)番号

(2)部材高 h(m)

(3)部材幅 b(m)

(4) σ_{ca} (kN/m²) : コンクリート許容応力度

(5) σ_{sa} (kN/m²) : 鉄筋許容応力度

(6)有効高 d(m)

(7)引張鉄筋比 pt(小数) : $pt = Ast/(bh)$ 、Ast : 引張鉄筋量

(8) $\delta (=d/h)$: 部材高に対する有効高の比

(9)N(kN) : 軸力

(10)N/(bh σ_{ca}) : σ_{ca} で定義した無次元化軸力

(11)N/(bh σ_{sa}) : σ_{sa} で定義した無次元化軸力

(12)n : ヤング係数比(=15)

(13)kb : 釣合時の中立軸比

(14)xb(m) : 釣合時の中立軸位置

(15)k1 : 全断面圧縮時の中立軸比

(16)Ma1/(bh²)(kN/m²) : 全断面圧縮時の許容曲げモーメント (応力表示)

対称配筋を仮定
(圧縮鉄筋量と引張鉄筋量は同じ、圧縮鉄筋被りと引張鉄筋被りは同じ)

圧縮鉄筋が許容に達するときは非考慮
(Abs(σ_s/σ_{sa})<1を確認すること)

- (17)k2 : 中立軸断面内で圧縮縁が許容時の中立軸比
- (18)Ma2/(bh²)(kN/m²) : 中立軸断面内で圧縮縁が許容時の許容曲げモーメント (応力表示)
- (19)k3 : 中立軸断面内で引張鉄筋許容時の中立軸比
- (20)Ma3/(bh²)(kN/m²) : 中立軸断面内で引張鉄筋許容時の許容曲げモーメント (応力表示)
- (21)k4 : 全断面引張時の中立軸比
- (22)Ma4/(bh²)(kN/m²) : 全断面引張時の許容曲げモーメント (応力表示)
- (23)モード : 「圧縮」、「コン許容」、「鉄筋許容」、および「引張」の表示
- (24)k(=x/h) : 中立軸比
- (25)x(cm) : 中立軸位置
- (26)Ma/(bh²)(kN/m²) : 許容曲げモーメント (kN/m² での応力表示)
- (27)Ma/(bh²)(N/mm²) : 許容曲げモーメント (N/mm² での応力表示)
- (28)Ma(kNm) : 許容曲げモーメント
- (29)σ s'/σ sa (圧縮正) : 圧縮鉄筋応力の照査値 (許容応力度に対する比)
- (30)Nmax : 最大軸力
- (31)Nmin : 最小軸力

図 3.2-1 に、ワークシート「k および Ma の計算」の例を示す。

番号	部材高 t(m)	部材幅 b(m)	σ ca (kN/m²)	σ sa (kN/m²)	有効高 h_{eff} (m)	引張 鉄筋比 ρ_s	δ (mm)	N (kN)	N/ (kN/m²)	n	kb (mm)	xb (mm)	k						圧縮						コン許容						鉄筋許容						鉄筋取扱						引張						E_{st}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
k1 (bh²)	k2 (bh²)	k3 (bh²)	k4 (bh²)	モード (bh²)	Ma1 (bh²)	Ma2 (bh²)	Ma3 (bh²)	Ma4 (bh²)	Ma5 (bh²)	Ma6 (bh²)	Ma7 (bh²)	Ma8 (bh²)	Ma9 (bh²)	Ma10 (bh²)	Ma11 (bh²)	Ma12 (bh²)	Ma13 (bh²)	Ma14 (bh²)	Ma15 (bh²)	Ma16 (bh²)	Ma17 (bh²)	Ma18 (bh²)	Ma19 (bh²)	Ma20 (bh²)	Ma21 (bh²)	Ma22 (bh²)	Ma23 (bh²)	Ma24 (bh²)	Ma25 (bh²)	Ma26 (bh²)	Ma27 (bh²)	Ma28 (bh²)	Ma29 (bh²)	Ma30 (bh²)	Ma31 (bh²)	Ma32 (bh²)	Ma33 (bh²)	Ma34 (bh²)	Ma35 (bh²)	Ma36 (bh²)	Ma37 (bh²)	Ma38 (bh²)	Ma39 (bh²)	Ma40 (bh²)	Ma41 (bh²)	Ma42 (bh²)	Ma43 (bh²)	Ma44 (bh²)	Ma45 (bh²)	Ma46 (bh²)	Ma47 (bh²)	Ma48 (bh²)	Ma49 (bh²)	Ma50 (bh²)	Ma51 (bh²)	Ma52 (bh²)	Ma53 (bh²)	Ma54 (bh²)	Ma55 (bh²)	Ma56 (bh²)	Ma57 (bh²)	Ma58 (bh²)	Ma59 (bh²)	Ma60 (bh²)	Ma61 (bh²)	Ma62 (bh²)	Ma63 (bh²)	Ma64 (bh²)	Ma65 (bh²)	Ma66 (bh²)	Ma67 (bh²)	Ma68 (bh²)	Ma69 (bh²)	Ma70 (bh²)	Ma71 (bh²)	Ma72 (bh²)	Ma73 (bh²)	Ma74 (bh²)	Ma75 (bh²)	Ma76 (bh²)	Ma77 (bh²)	Ma78 (bh²)	Ma79 (bh²)	Ma80 (bh²)	Ma81 (bh²)	Ma82 (bh²)	Ma83 (bh²)	Ma84 (bh²)	Ma85 (bh²)	Ma86 (bh²)	Ma87 (bh²)	Ma88 (bh²)	Ma89 (bh²)	Ma90 (bh²)	Ma91 (bh²)	Ma92 (bh²)	Ma93 (bh²)	Ma94 (bh²)	Ma95 (bh²)	Ma96 (bh²)	Ma97 (bh²)	Ma98 (bh²)	Ma99 (bh²)	Ma100 (bh²)	Ma101 (bh²)	Ma102 (bh²)	Ma103 (bh²)	Ma104 (bh²)	Ma105 (bh²)	Ma106 (bh²)	Ma107 (bh²)	Ma108 (bh²)	Ma109 (bh²)	Ma110 (bh²)	Ma111 (bh²)	Ma112 (bh²)	Ma113 (bh²)	Ma114 (bh²)	Ma115 (bh²)	Ma116 (bh²)	Ma117 (bh²)	Ma118 (bh²)	Ma119 (bh²)	Ma120 (bh²)	Ma121 (bh²)	Ma122 (bh²)	Ma123 (bh²)	Ma124 (bh²)	Ma125 (bh²)	Ma126 (bh²)	Ma127 (bh²)	Ma128 (bh²)	Ma129 (bh²)	Ma130 (bh²)	Ma131 (bh²)	Ma132 (bh²)	Ma133 (bh²)	Ma134 (bh²)	Ma135 (bh²)	Ma136 (bh²)	Ma137 (bh²)	Ma138 (bh²)	Ma139 (bh²)	Ma140 (bh²)	Ma141 (bh²)	Ma142 (bh²)	Ma143 (bh²)	Ma144 (bh²)	Ma145 (bh²)	Ma146 (bh²)	Ma147 (bh²)	Ma148 (bh²)	Ma149 (bh²)	Ma150 (bh²)	Ma151 (bh²)	Ma152 (bh²)	Ma153 (bh²)	Ma154 (bh²)	Ma155 (bh²)	Ma156 (bh²)	Ma157 (bh²)	Ma158 (bh²)	Ma159 (bh²)	Ma160 (bh²)	Ma161 (bh²)	Ma162 (bh²)	Ma163 (bh²)	Ma164 (bh²)	Ma165 (bh²)	Ma166 (bh²)	Ma167 (bh²)	Ma168 (bh²)	Ma169 (bh²)	Ma170 (bh²)	Ma171 (bh²)	Ma172 (bh²)	Ma173 (bh²)	Ma174 (bh²)	Ma175 (bh²)	Ma176 (bh²)	Ma177 (bh²)	Ma178 (bh²)	Ma179 (bh²)	Ma180 (bh²)	Ma181 (bh²)	Ma182 (bh²)	Ma183 (bh²)	Ma184 (bh²)	Ma185 (bh²)	Ma186 (bh²)	Ma187 (bh²)	Ma188 (bh²)	Ma189 (bh²)	Ma190 (bh²)	Ma191 (bh²)	Ma192 (bh²)	Ma193 (bh²)	Ma194 (bh²)	Ma195 (bh²)	Ma196 (bh²)	Ma197 (bh²)	Ma198 (bh²)	Ma199 (bh²)	Ma200 (bh²)	Ma201 (bh²)	Ma202 (bh²)	Ma203 (bh²)	Ma204 (bh²)	Ma205 (bh²)	Ma206 (bh²)	Ma207 (bh²)	Ma208 (bh²)	Ma209 (bh²)	Ma210 (bh²)	Ma211 (bh²)	Ma212 (bh²)	Ma213 (bh²)	Ma214 (bh²)	Ma215 (bh²)	Ma216 (bh²)	Ma217 (bh²)	Ma218 (bh²)	Ma219 (bh²)	Ma220 (bh²)	Ma221 (bh²)	Ma222 (bh²)	Ma223 (bh²)	Ma224 (bh²)	Ma225 (bh²)	Ma226 (bh²)	Ma227 (bh²)	Ma228 (bh²)	Ma229 (bh²)	Ma230 (bh²)	Ma231 (bh²)	Ma232 (bh²)	Ma233 (bh²)	Ma234 (bh²)	Ma235 (bh²)	Ma236 (bh²)	Ma237 (bh²)	Ma238 (bh²)	Ma239 (bh²)	Ma240 (bh²)	Ma241 (bh²)	Ma242 (bh²)	Ma243 (bh²)	Ma244 (bh²)	Ma245 (bh²)	Ma246 (bh²)	Ma247 (bh²)	Ma248 (bh²)	Ma249 (bh²)	Ma250 (bh²)	Ma251 (bh²)	Ma252 (bh²)	Ma253 (bh²)	Ma254 (bh²)	Ma255 (bh²)	Ma256 (bh²)	Ma257 (bh²)	Ma258 (bh²)	Ma259 (bh²)	Ma260 (bh²)	Ma261 (bh²)	Ma262 (bh²)	Ma263 (bh²)	Ma264 (bh²)	Ma265 (bh²)	Ma266 (bh²)	Ma267 (bh²)	Ma268 (bh²)	Ma269 (bh²)	Ma270 (bh²)	Ma271 (bh²)	Ma272 (bh²)	Ma273 (bh²)	Ma274 (bh²)	Ma275 (bh²)	Ma276 (bh²)	Ma277 (bh²)	Ma278 (bh²)	Ma279 (bh²)	Ma280 (bh²)	Ma281 (bh²)	Ma282 (bh²)	Ma283 (bh²)	Ma284 (bh²)	Ma285 (bh²)	Ma286 (bh²)	Ma287 (bh²)	Ma288 (bh²)	Ma289 (bh²)	Ma290 (bh²)	Ma291 (bh²)	Ma292 (bh²)	Ma293 (bh²)	Ma294 (bh²)	Ma295 (bh²)	Ma296 (bh²)	Ma297 (bh²)	Ma298 (bh²)	Ma299 (bh²)	Ma300 (bh²)	Ma301 (bh²)	Ma302 (bh²)	Ma303 (bh²)	Ma304 (bh²)	Ma305 (bh²)	Ma306 (bh²)	Ma307 (bh²)	Ma308 (bh²)	Ma309 (bh²)	Ma310 (bh²)	Ma311 (bh²)	Ma312 (bh²)	Ma313 (bh²)	Ma314 (bh²)	Ma315 (bh²)	Ma316 (bh²)	Ma317 (bh²)	Ma318 (bh²)	Ma319 (bh²)	Ma320 (bh²)	Ma321 (bh²)	Ma322 (bh²)	Ma323 (bh²)	Ma324 (bh²)	Ma325 (bh²)	Ma326 (bh²)	Ma327 (bh²)	Ma328 (bh²)	Ma329 (bh²)	Ma330 (bh²)	Ma331 (bh²)	Ma332 (bh²)	Ma333 (bh²)	Ma334 (bh²)	Ma335 (bh²)	Ma336 (bh²)	Ma337 (bh²)	Ma338 (bh²)	Ma339 (bh²)	Ma340 (bh²)	Ma341 (bh²)	Ma342 (bh²)	Ma343 (bh²)	Ma344 (bh²)	Ma345 (bh²)	Ma346 (bh²)	Ma347 (bh²)	Ma348 (bh²)	Ma349 (bh²)	Ma350 (bh²)	Ma351 (bh²)	Ma352 (bh²)	Ma353 (bh²)	Ma354 (bh²)	Ma355 (bh²)	Ma356 (bh²)	Ma357 (bh²)	Ma358 (bh²)	Ma359 (bh²)	Ma360 (bh²)	Ma361 (bh²)	Ma362 (bh²)	Ma363 (bh²)	Ma364 (bh²)	Ma365 (bh²)	Ma366 (bh²)	Ma367 (bh²)	Ma368 (bh²)	Ma369 (bh²)	Ma370 (bh²)	Ma371 (bh²)	Ma372 (bh²)	Ma373 (bh²)	Ma374 (bh²)	Ma375 (bh²)	Ma376 (bh²)	Ma377 (bh²)	Ma378 (bh²)	Ma379 (bh²)	Ma380 (bh²)	Ma381 (bh²)	Ma382 (bh²)	Ma383 (bh²)	Ma384 (bh²)	Ma385 (bh²)	Ma386 (bh²)	Ma387 (bh²)	Ma388 (bh²)	Ma389 (bh²)	Ma390 (bh²)	Ma391 (bh²)	Ma392 (bh²)	Ma393 (bh²)	Ma394 (bh²)	Ma395 (bh²)	Ma396 (bh²)	Ma397 (bh²)	Ma398 (bh²)	Ma399 (bh²)	Ma400 (bh²)	Ma401 (bh²)	Ma402 (bh²)	Ma403 (bh²)	Ma404 (bh²)	Ma405 (bh²)	Ma406 (bh²)	Ma407 (bh²)	Ma408 (bh²)	Ma409 (bh²)	Ma410 (bh²)	Ma411 (bh²)	Ma412 (bh²)	Ma413 (bh²)	Ma414 (bh²)	Ma415 (bh²)	Ma416 (bh²)	Ma417 (bh²)	Ma418 (bh²)	Ma419 (bh²)	Ma420 (bh²)	Ma421 (bh²)	Ma422 (bh²)	Ma423 (bh²)	Ma424 (bh²)	Ma425 (bh²)	Ma426 (bh²)	Ma427 (bh²)	Ma428 (bh²)	Ma429 (bh²)	Ma430 (bh²)	Ma431 (bh²)	Ma432 (bh²)	Ma433 (bh²)	Ma434 (bh²)	Ma435 (bh²)	Ma436 (bh²)	Ma437 (bh²)	Ma438 (bh²)	Ma439 (bh²)	Ma440 (bh²)	Ma441 (bh²)	Ma442 (bh²)	Ma443 (bh²)	Ma444 (bh²)	Ma445 (bh²)	Ma446 (bh²)	Ma447 (bh²)	Ma448 (bh²)	Ma449 (bh²)	Ma450 (bh²)	Ma451 (bh²)	Ma452 (bh²)	Ma453 (bh²)	Ma454 (bh²)	Ma455 (bh²)	Ma456 (bh²)	Ma457 (bh²)	Ma458 (bh²)	Ma459 (bh²)	Ma460 (bh²)	Ma461 (bh²)	Ma462 (bh²)	Ma463 (bh²)	Ma464 (bh²)	Ma465 (bh²)	Ma466 (bh²)	Ma467 (bh²)	Ma468 (bh²)	Ma469 (bh²)	Ma470 (bh²)	Ma471 (bh²)	Ma472 (bh²)	Ma473 (bh²)	Ma474 (bh²)	Ma475 (bh²)	Ma476 (bh²)	Ma477 (bh²)	Ma478 (bh²)	Ma479 (bh²)	Ma480 (bh²)	Ma481 (bh²)	Ma482 (bh²)	Ma483 (bh²)	Ma484 (bh²)	Ma485 (bh²)	Ma486 (bh²)	Ma487 (bh²)	Ma488 (bh²)	Ma489 (bh²)	Ma490 (bh²)	Ma491 (bh²)	Ma492 (bh²)	Ma493 (bh²)	Ma494 (bh²)	Ma495 (bh²)	Ma496 (bh²)	Ma497 (bh²)	Ma498 (bh²)	Ma499 (bh²)	Ma500 (bh²)	Ma501 (bh²)	Ma502 (bh²)	Ma503 (bh²)	Ma504 (bh²)	Ma505 (bh²)	Ma506 (bh²)	Ma507 (bh²)	Ma508 (bh²)	Ma509 (bh²)	Ma510 (bh²)	Ma511 (bh²)	Ma512 (bh<

4. 計算例

4.1 計算条件

計算例の断面諸元を、表 4.1-1 に示す。配筋条件は、複鉄筋の対称配筋とした。

軸力値を-800～6900kN まで 100kN 刻みで変動させ、それぞれの許容曲げモーメントを算出した。

表 4.1-1 断面諸元

諸元	値	備考
部材高 $h(cm)$	80	
部材幅 $b(cm)$	100	
コンクリート許容応力度 $\sigma_{ca}(N/mm^2)$	8	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$ を想定
鉄筋許容応力度 $\sigma_{sa}(N/mm^2)$	180	SD295 を想定
引張鉄筋量 $A_{st}(cm^2)$	22.92 (D19@125)	$pt=A_{st}/(bh)=0.002865$
鉄筋被り $c(cm)$	10	$c/h=0.125$
軸力 $N(kN)$	-800～6900 (100 刻み)	

4.2 計算結果

図 4.2-1(a)および(b)に、本エクセルによる計算結果を、Ma-N 関係として示した。同図にはそれぞれ別マクロ 1「多段配筋矩形 RC 断面に対する許容応力度照査時の M-N 関係図の作成（その 2）」および別マクロ 2「多段配筋矩形 RC 断面に対する許容応力度照査時の M-N 関係図の作成」による計算結果も併記した。図によれば、両者の結果がほぼ一致していることがわかる。

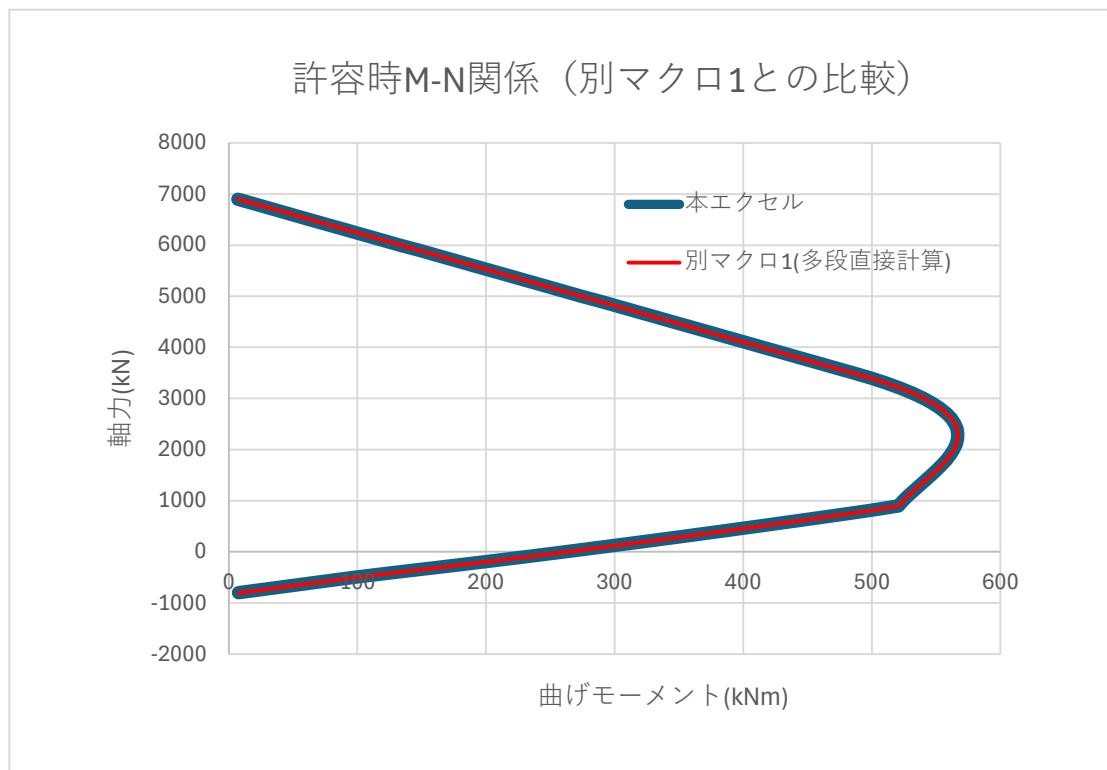


図 4.2-1(a) 計算結果 (別マクロ 1 の結果を併記)

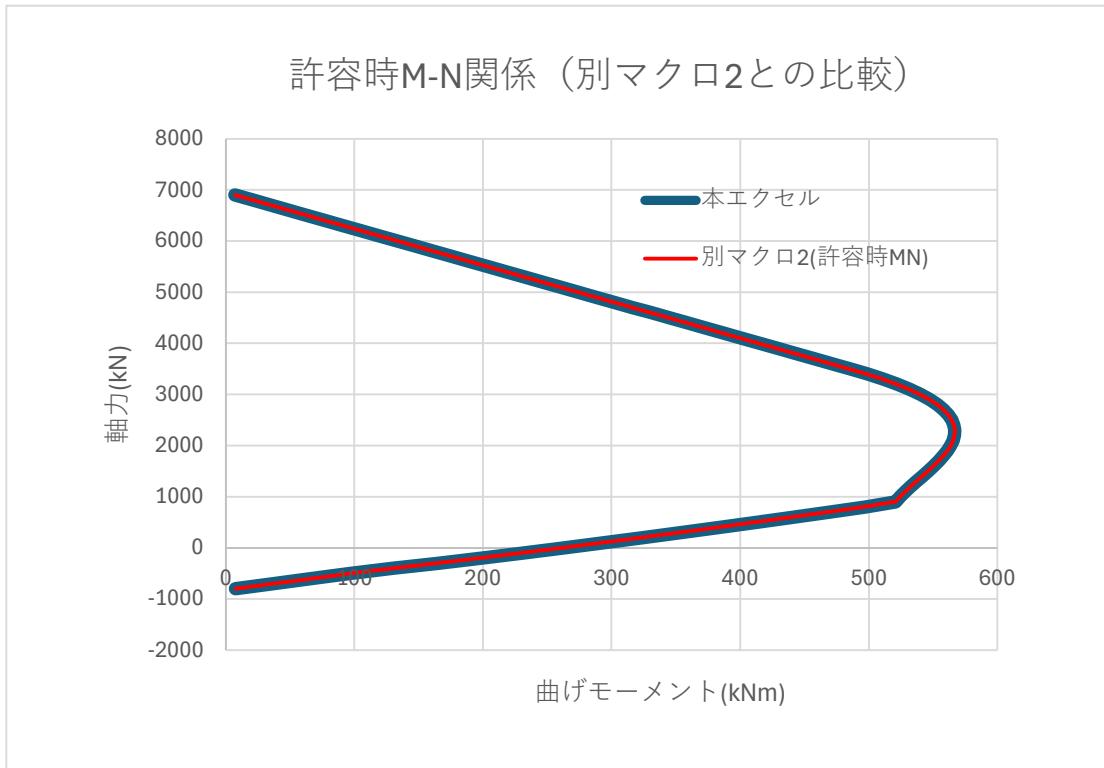


図 4.2-1(b) 計算結果（別マクロ 2 の結果を併記）

図 4.2-1(c)に、軸応力 $N/(bh)$ と応力度表示の許容曲げモーメント $Ma/(bh^2)$ の関係を示す。

同図の表記によれば、許容応力度、引張鉄筋比 pt および部材高に対する鉄筋被りの比 c/h が同一のとき、部材高さ h と部材幅 b に依らず適用可能となる。

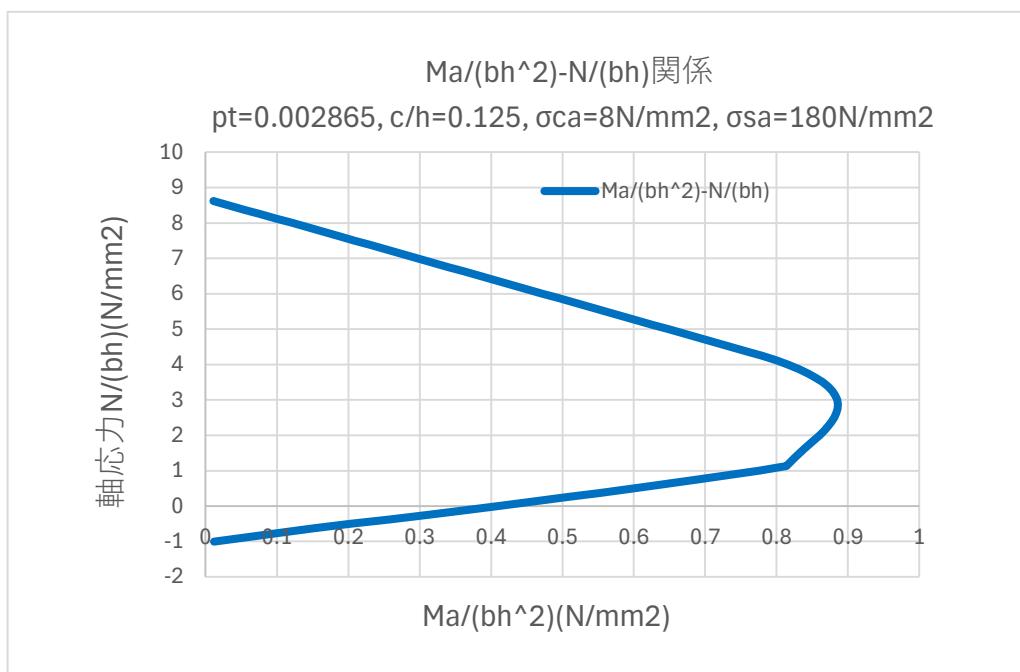


図 4.2-1(c) 計算結果（応力度表示の許容曲げモーメント）

図 4.2-2 に、軸力変化による許容時における中立軸比を示す。

図によれば、4 つのモードによる中立軸比 k_1 、 k_2 、 k_3 および k_4 が存在するが、軸力変化に伴ってモードが変遷し、軸力増大によって $k_4 \rightarrow k_3 \rightarrow k_2 \rightarrow k_1$ と中立軸比が移っていく様子がわかる。

図 4.2-3 に、許容時における圧縮鉄筋応力 σ_s' の照査値（許容応力度に対する比）を示す。

図によれば、対象とした軸力の範囲内において、照査値の絶対値が 1.0 以下であり、圧縮鉄筋応力が許容応力度以内であることがわかる。

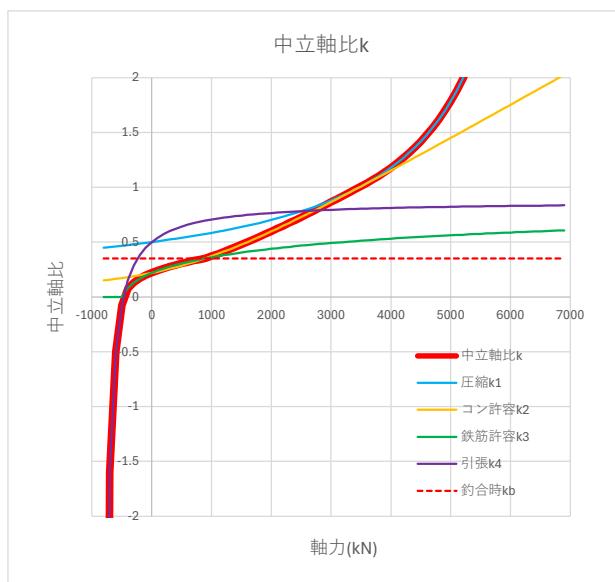


図 4.2-2 軸力による中立軸比の変化

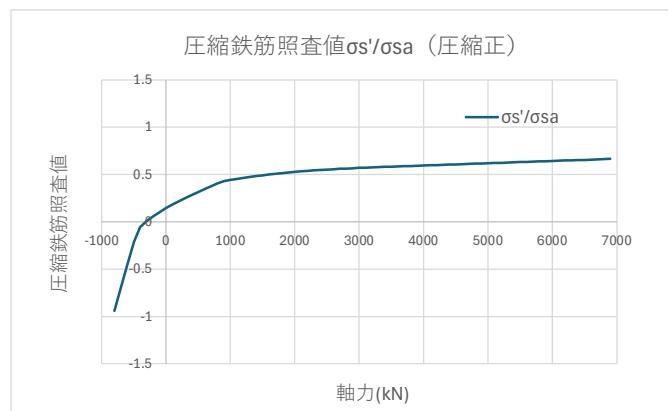


図 4.2-3 圧縮鉄筋応力の照査値